

発行責任者:磯村 朔
〒254-0004 小鍋島 621-1
TEL・FAX 0463-53-1822
http://www.scn-net.ne.jp/~kiji-fkm/

城島ふれあいの里 通信 第46号



高齢者とは？

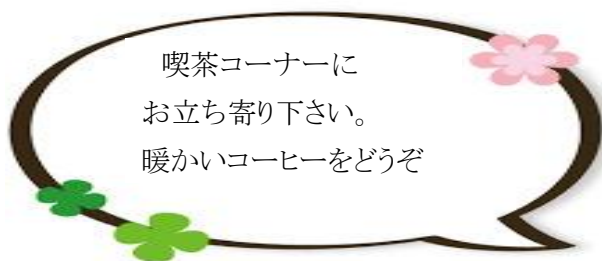
最近の新聞記事に「高齢者は75歳から」と大きな文字で書かれていました。一般的に65歳以上とされている高齢者の定義について、日本老年学会と日本老年医学会が75歳以上とすべきだとする提言を発表したことによるものです。65歳～74歳は「心身ともに元気な人が多く、高齢者とするのは時代に合わない」として、新たに「準高齢者」とし、「高齢者の準備期」と位置づけている。

この世代を「社会を支える人だち」と捉え直し、より多くの方が活力ある超高齢社会につなげる狙いがある。また、平均寿命の伸びなどを考慮して、90歳以上は「超高齢者」とした。提言は「あくまで、医学的な立場から検討したもの」とし、「高齢者の定義を変えることで、社会福祉などネガティブな方向に動いてほしくない。国民が提言をどう利用するかは別の問題」としている。

(なお国勢調査ではかつて60歳以上を「老年人口」としていたが、1965年以降は65歳以上となった)

城島ふれあいの里のは、平成17年2月の開設ですから既に12年を経過しております。60～70歳だったメンバーも今では70～80歳台に達しています。これまでのメンバーに続く新たなメンバーが是非とも必要になってきています。

ふれあいの里の諸活動についてより多くの地域参加を呼びかけ、活力ある高齢化社会を築いていくことが今こそ大切ではないかと思えます。「長生きして幸せだった」といえる城島地域の実現のために「ふれあいの里」の諸活動にご参加と御協力の程をお願い申し上げます。



！ボランティアの募集をしています！！

町内福祉村「城島ふれあいの里」では、地域の福祉活動に共に参加して下さるボランティアを募集しています。

* お問い合わせ先：申し込み先：城島ふれあいの里

(電話：53-1822) 月～金 10時～15時

1月 昔遊び

厳しい寒さにもかかわらず大勢の子供さんで賑わい会場はほんわか和やかなひと時となりました。



外国人が来た

会長 磯村 朔

マレーシア政府が派遣した視察団のうち、6名が福祉村を訪れた。

まず交流室で、ハンドベルによる「ふるさと」や「ドレミの歌」等の演奏を楽しんだ。

次に、事務室で質問を受けることにした。

着席すると、各自に和菓子と抹茶が配られた。

「初めに和菓子を食べ、椀を少し回して飲み、口をつけた所を指先でぬぐい、元の位置に戻したらお礼を言う」と、接待役が茶道の作法を説明した。

通訳が席をはずしたので、「シーズマイウィフ」と接待役を紹介した。歳はいくつだと聞いてきたが、日本では女性に歳を聞くのはマナー違反だからと、教えなかった。私の歳を聞いてきたので、「77だ」と答えと、「オーヤング」といってくれた。妻の歳を教えたら、「クワイエット」とか「ポライト」とか、何かお世辞を言ってほめてくれたかもしれない。

「年間予算は」、「サロンでは何をやっているのか」等、次々質問されたが、杉山和子総務部長が、てきばきと答えた。「城島の特産物は枝豆と小松菜です」。在米十年だと言っていた通訳は、「エダマメは、アメリカでは知らない人はいません。大豆になる前の若い豆を茹でて、食べるのです」と、説明していた。

公民館祭り

3月4日(土)～5日(日)

ふれあいの里では

- ★ 演芸部門ではソーラン踊りに出演します是非ご覧ください。
- ★ 手芸い部門では吊るし雛を出品、日頃の成果をみてね。